

生活様式の洋風化が定着し、冬場にもかかわらず、こたつの出番が減っている。需要が頭打ちの中、こたつ用ヒーターユニットで国内シェアトップのメトロ電気工業（愛知県安城市、川合誠治社長、0566・75・8811）は、産業分野でヒーターの用途開発を進めている。ヒーターを熱源にした各種加熱器を、用途に応じてオーダーメイドで設計・製造できる点を強みに展開する。製造現場のほか、食品など幅広い分野で新たな需要を開拓する。

（名古屋・一色映里表示）

オーダーメイドで加熱器

メトロ電気工業

伸び見込めず

メトロ電気工業は、こたつ用ヒーターユニットでシェア約80%を持つトップメーカー。2015年3月期の売上高は28億2200万円。主力のこたつ・暖

代替は可能」（川合社線ランプヒーター式加熱器）

ターモード対応を軸にーを使い続けてきた経緯がある。このため、種加熱器は熱源にガスバーナーを使うことが多いが、高出力・高効率の赤外線ランプヒーターを産業向けに中心に据える。

また、短時間で均熱工程に、同社のヒーター式加熱器が採用される。また、ヒーター管に、これを機に塗装の素材に使用される石英や接着の乾燥工程などは水にぬれても割れにくく、モノづくり現場が、生産設備の安全性を重視する食品業界からの需要も期待できると見られる。主力のこたつ・暖房製品に次ぐ事業の柱として、育成に力を注ぐ。

こたつから 産業向けに 車部品製造で採用

房製品が売上高の約60%を占めるが、今後需

要の大きな伸びを見込みにくいのが現状だ。

線などの発熱体を使う

産業分野の用途開発

は、こたつ用ヒーター

ユニットの技術を生か

し、各種加熱器を用途

に応じて製作するオー

長」という。

ヒーター式加熱器のーナー式に比べてエネルギーを約60%削減できるという。温度調節が容易で、維持管理が簡単という。14年11月に、大手自動車メーカーの工

には3億円規模に育てる方針だ。

普及に手応え

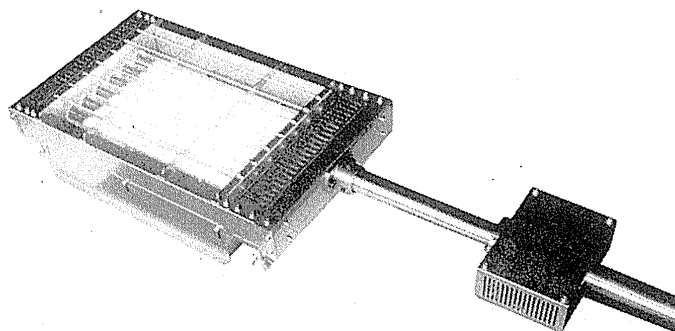
「普及の手応え」は

ある。14年11月に、大

手自動車メーカーの工

ンジン部品を生産する

鑄造機の全ての金型加



▲省エネ効果が高い赤外線ヒーター式加熱器

電機・電子部品・情報・通信